

第5章 巢山古墳の本質的価値

第1節 巢山古墳の本質的価値

史跡の指定説明文やその後の調査等で明らかになった遺構・遺物の内容から、特別史跡巢山古墳の本質的価値を以下のようにまとめることができる。

1) 古墳時代中期初頭の大規模前方後円墳

巢山古墳は、大王の墓域が佐紀から河内へ移動する時期に築造されたとされる全国でも屈指の規模を有する前方後円墳で、馬見古墳群の中で最大の規模を誇る。南北方向の丘陵東斜面を利用し、丘陵側を大きく掘り込み構築された三段築成の前方後円墳で、墳丘規模は全長約220m、後円部径約130m、高さ約19m、前方部先端幅約112m、高さ約16.5mで、左右のくびれ部に方形の造り出しが取り付け、前方部頂部には方形壇がある。前方部と後円部には竪穴式石室が築かれているが、明治時代に盗掘されて多くの遺物が出土している。遺物は宮内庁書陵部に収蔵されている。

2) 古墳祭祀を考える上で極めて重要な遺跡：周濠水面下の遺構が解明された数少ない古墳

■出島状遺構の確認

前方部西側のほぼ中央部で墳丘から周濠に張り出した出島状の遺構が検出された。形状は東側が方形、南側・北側は直角に曲がり、南西方向には突出部を設け、突出部の先端に水鳥形埴輪を置き、頂上部には、蓋、家等の形象埴輪を配する。斜面には石を葺き、出島の西側からは円形の石列を2つ連結したひょうたん島状の石組みも確認されている。

王の居館を再現しているとみられる出島状遺構の埴輪は、外堤から臨場感をもって眺められることから、王の威厳を埴輪で表現し、広範に人々に見せる装置であった可能性も指摘されている。

■史書に登場する喪船の出土

周濠の北東隅の葺石裾付近から準構造船の部材である豎板と舷側板が出土した。豎板（クスノキ）と舷側板（スギ）には円文様や直弧文が描かれ、表面には赤色顔料が塗られた痕跡がある。出土状況から使用後に解体して埋められたとみられる。

この船は『古事記』仲哀記、忍熊王の反逆記事にある「喪船」（遺骸を載せる船）と考えられる。また『隋書』倭国伝に「死者は棺槨に納める、…貴人の場合、三年間は外で殯し、…葬儀に及ぶと、屍を船上に置き、陸地にこれを牽引する、あるいは小さな御輿を以て行なう。」とあり、史書の記述を裏付ける葬送儀礼に使用された遺物として貴重である。

古墳時代の他界観を考究する上で、重要な史料である。

■水面下の調査・成果により古墳研究に多くの情報を提供

巢山古墳は全長200mを超える前方後円墳で、常時は水面下にある墳丘裾部と外堤裾部をほぼ全面的に発掘した最初の事例である。調査により墳丘規模が確定したのをはじめ、出島状遺構や喪船等の多くの重要遺構・遺物が検出された。また出島状遺構の位置や周濠の調査から当初の水位やその後の周濠の環境変化が明らかとなり、葺石の調査では区画石列による葺

石作業単位といった築造工程が判明、石材の石種・採取地（使い分け）も明らかとなった。このように発掘調査から多くの知見を得ることができ、大王墓等調査の難しい水を湛えた大型前方後円墳における、水面下の情報を知る手がかりとなった貴重な古墳である。

3) 墳丘・周濠・外堤が良好に残存し、かつ立入可能な希少な古墳

三段築成でくびれ部両側に造り出しをもつ、きわめて宏壮な墳丘で、しかも整美な型式の代表的な古墳として学術上特に価値が高いという評価から特別史跡に指定されている。周濠は水田や灌漑用溜池として長らく利用されてきたものの、墳丘、周濠、外堤とほとんど大きく改変されることなく保存状態が良好な古墳で、かつ墳丘への立ち入りが可能な大規模前方後円墳である。古墳の周囲を巡る外堤は帯状の広場となり、視界を遮る樹林等も無く、水を湛える周濠越しに古墳全周を巡ることができる希少な古墳である。このように古墳の本来の規模や形を現地で体感できる大規模古墳は貴重であり、保存活用を考える点で重要な価値といえる。

第2節 史跡の保護に資する要素としての周濠の水景観

史跡の本質的価値ではないが、史跡の本質的価値と一体的な要素をなすものとして、周濠の水景観があげられる。

■周濠の役割と景観の変化：灌漑用溜池としての役割と歴史的景観の形成

古墳築造当時の周濠の水は、西側の丘陵からの地下水が西側外堤裾から湧き出し、出島状遺構の汀が見える程度であり、周濠底から50cm程の水位であった。

その後、植物の枝葉が濠底に堆積し有機質の泥土となり、周濠水位を押し上げた結果、奈良時代末から平安時代初めには一部墳丘裾部上部が小区画水田に利用された後、周濠水位の上昇によって周濠全体がため池として利用されるようになったとみられる。巢山古墳の江戸時代の絵図には水を湛えた周濠の様子が描かれている（図3-2参照）。長らく雨水を利用したため池（アシ池）であったが、昭和49年(1974)以降、吉野川分水が供給され、水を満々と湛えた現在の景観となっている。

周濠の水景観は、築造当初はその量はわずかであったが、此岸（外堤）から海の彼方の島にある常世の王の住まいを眺める重要な結界的役割を果たしていたと考えられる。そして、奈良時代以降は地域住民の生活のための農業用水として利用されるようになり、地域の生産基盤である農業を支えてきたため池（水）景観として現在まで継承されている。

この景観は水の多少はあるが、いふなれば築造当時の周濠の水景観を引き継ぐもので、水の供給先である周辺の水田と一体となって歴史的文化的景観を形成している。

第3節 特別史跡巢山古墳を構成する要素の特定

1. 巢山古墳及び周辺を構成する要素の区分

特別史跡巢山古墳を構成する要素は、史跡としての根幹である「A本質的価値を構成する枢要な要素」（古墳の墳丘、周濠、外堤等の地上遺構や地下遺構、遺物）があげられる。また巢山古墳は周濠が古くから灌漑用溜池として利用されている以外は、全て公有化され専ら文化財保護のための用地となっている。これら史跡と一体をなす要素や史跡の保護に有効な要素を、「B保護に資する諸要素」としてあげる。なお、現在の周濠の水景観は灌漑用水として当面維持されていることから、灌漑用水に関連する要素も含むものとする。A、B以外のものをその他の要素Cとする。

また、巢山古墳の指定地の周辺には巢山古墳も含まれる馬見古墳群、古墳群の一部を公園化した施設や、出土遺物（本質的価値を構成する要素）を収蔵・展示する広陵町文化財保存センター等の巢山古墳に関連する遺跡や関連施設をはじめとして周辺に広がる農地や道路等がある。

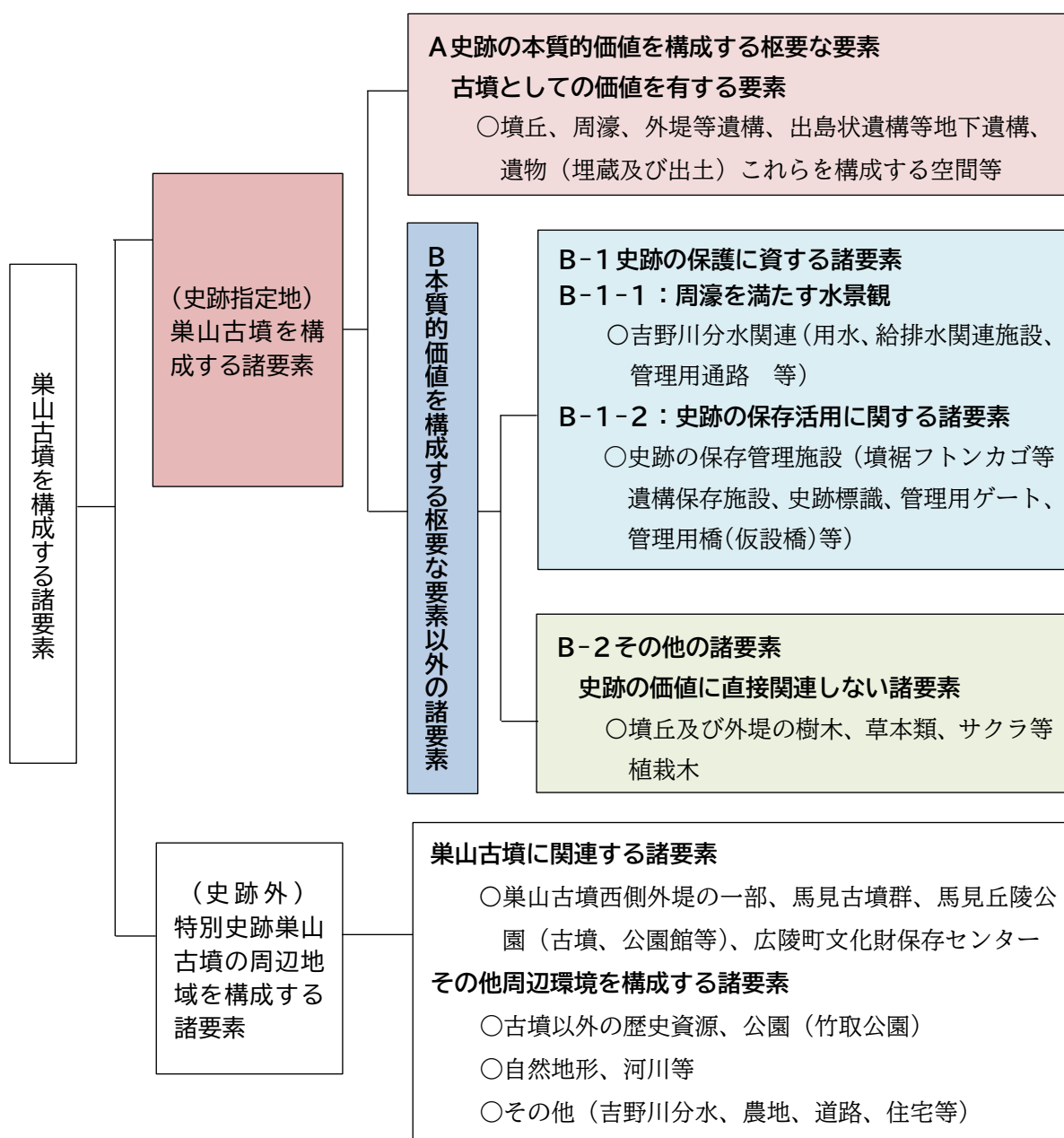


図5-1 特別史跡巢山古墳及び周辺を構成する要素の区分

2. 史跡築山古墳の構成要素の概要

築山古墳の指定地内における史跡を構成する要素の概要は以下のようなものがある。

表 5-1 史跡を構成する要素の概要

構成要素			概 要
A 本質的価値を構成する要素	古墳としての価値を有する要素	地上遺構	墳丘、周濠、築堤 築山古墳は前方後円型の墳丘、それを取りまく周濠、さらにその外側の外堤から成る。東へ延びる丘陵部の先端を切り通して築かれたため東側の外堤は西側よりもやや低く、さらにその西側(史跡外)とも明確な高低差がある。
		地下遺構	葺石、出島状遺構、埋葬施設(推定) 発掘調査において墳丘裾や外堤の周濠側に葺石が確認されており、前方部西側からは出島状遺構が発見された。これらは遺構保存施設の下で覆土保存されている。後円部の墳頂・前方部の墳頂には埋葬施設がある。
		遺物	埴輪など これまでの発掘調査において埴輪等多数の遺物が出土しており、さらなる遺物の存在が想定される。出土した遺物は広陵町文化財保存センター等で展示・収蔵されている。
B-1 史跡の保護に資する諸要素			
B 本質的価値を構成する重要な要素以外の諸要素	B-1-1 周濠を満たす水景観	アシ池	用水(周濠部をため池として利用) 築山古墳の周濠はアシ池と呼ばれる古くからの農業用ため池で、現在も吉野川分水からの水を引き入れ、周辺の農地へと供給する役割を果たしている。 歴史的に地域の生活と景観に密接に関わり本質的価値の維持にも貢献してきた要素である。奈良県自然環境保全条例第27条第1項の規定に基づき、「森林、草生地、山岳、高原、丘陵、古墳、渓谷、池沼、河川等により形成される県の代表的な自然景観を維持するために必要な地区」として馬見丘陵景観保全地区が指定されており、築山古墳もこれに含まれる。
		吉野川分水関連	樋門、水路(暗渠・開渠、余水吐)、管理用通路 樋門は3か所あり、外堤を横断する形でそれぞれの樋門に通じる管理用通路がある。南側に余水吐・水路・床版(通路)があるが、これらについては周濠堆積土砂浚渫に伴い周濠水位が下がったため、配・取水口レベルを下げるための改修工事を行っている。
	B-1-2 史跡の保存活用に関する諸要素	史跡の保存管理施設	史跡標識、墳裾フトンカゴ等遺構保存施設、管理用ゲート、管理用橋(仮設橋) 外堤の前方部と後円部の2か所に史跡標識を設置している(昭和4年)。周濠の護岸は墳丘裾・外堤側ともに遺構保存整備を実施しており、フトンカゴ等を設置している。また、周濠南西部に墳丘と周濠と繋ぐ管理用橋(仮設橋)を設置している。外堤の南西部の県道との境界に管理用のゲートを設置している。
		史跡保存整備工事関連堆積物	周濠浚渫土、築堤撤去土砂(仮置き) 周濠の北方と西方には、これまでの遺構保存整備による周濠浚渫土・築堤撤去土砂を仮置きしている。(令和7年度撤去予定)
	B-2 その他の諸要素	植生	墳丘及び外堤の樹木、草本類、桜等植栽木 墳丘・外堤ともに多くの樹木が生育している。墳丘では後円部の南西側・前方部の北西側は特に常緑広葉樹が密生しており、針葉樹は後円部の東側・前方部の北東側に多く見られる。外堤では南側にタケ類・北東部に針葉樹の密生がみられる。また西側の周濠沿いと史跡境界外の馬見丘陵公園側には対になるような位置にサクラが植えられている。

構成要素写真一覧

A 史跡の本質的価値を構成する枢要な要素《古墳としての価値を有する要素》



墳丘



周濠



外堤



葦石(0601T)



出島状遺構



埋葬施設(墳丘前方部)



埋葬施設(後円部)



遺物(埴輪)



遺物(喪船)

B-1 史跡の保護に資する諸要素《B-1-1 周濠を満たす水景観》



用水



樋門(北側)



樋門(東側)



水路(管理用ゲート付近)



水路(外堤東側)



流入口



床版



管理用通路(東側樋門付近)



管理用通路(外堤北東側)

B-1 史跡の保護に資する諸要素 《B-1-2 史跡の保存活用に関する諸要素》



史跡標識(南側)



フトンカゴ(墳丘側)



フトンカゴ
(築堤側、中央に樋門)



管理用ゲート



管理用橋(仮設橋)



周濠浚渫土・築堤撤去土砂

B-2 その他の要素 《史跡の価値に直接関連しない諸要素》



外堤の樹木(北東部)



外堤の樹木(南西部)



モウソウチク(外堤南東側)



墳丘の樹木(東側中央部)



墳丘の樹木(前方部)



墳丘の樹木(後円部)

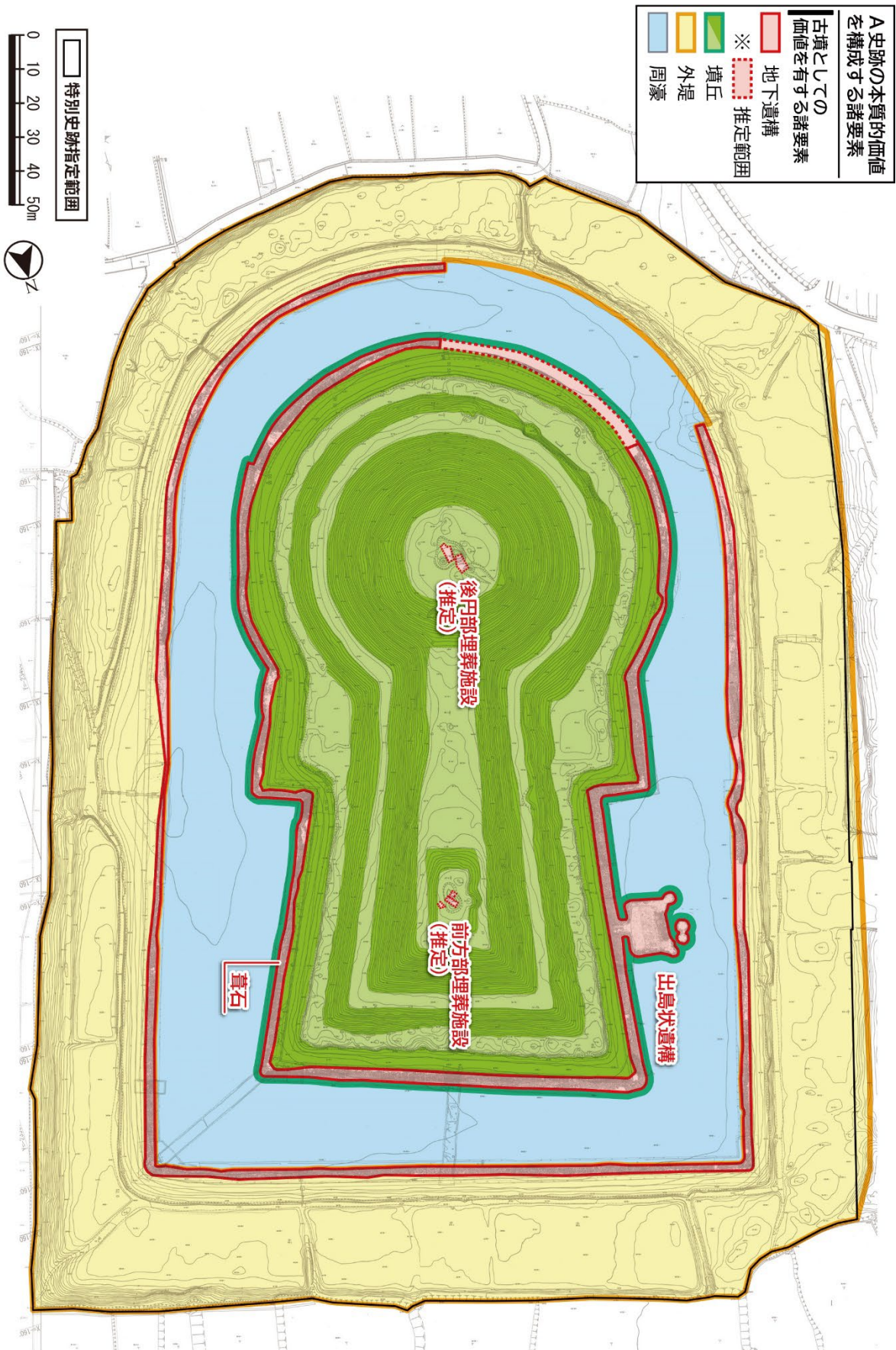


図5-2 A史跡の本質的価値を構成する諸要素

[出典：平成9年度測量図を加工して作成]

3. 史跡指定地周辺の主要要素の概要

構成要素		概要
巢山古墳に関連する要素	巢山古墳関連遺構（西側外堤の一部等）	<p>巢山古墳は馬見丘陵の裾部を開鑿して築造されている。古墳の西端にあたる外堤西側に隣接する馬見丘陵公園側には外堤を造成した裾部斜面（丘陵開鑿したV字状遺構）が伸びているとみられる。</p> <p>馬見丘陵公園内 ^{つかみぼし} 墳観橋下に巢山古墳外堤の北西部の斜面部を調査した土層断面を展示している。</p> <p>巢山古墳外堤の北側の馬見丘陵公園内に古墳状高まり（南北約20m、東西約40m）があり、発掘調査で巢山古墳と同時期の埋葬施設が確認されている。円筒埴輪列、円筒棺、船形埴輪片が出土した、船形埴輪には巢山古墳から出土した喪船と同様の直弧文が刻まれ、巢山古墳と関連する遺跡と推定されている。</p>
	巢山古墳出土遺物収蔵施設（広陵町文化財保存センター）	<p>平成15年に巢山古墳出島状遺構から多数の埴輪類が出土したことを受け、これらを広く一般に公開するために平成18年に開設した。</p> <p>巢山古墳から出土した埴輪類や準構造船のレプリカその他、牧野古墳・文代山古墳等近隣の古墳から出土した埴輪類も展示している。</p> <p>巢山古墳から約3km離れた広陵町役場の敷地内に建つ。</p>
	馬見古墳群	<p>馬見丘陵の東南部には大型前方後円墳を含む多くの古墳が造られ、馬見古墳群と総称される。巢山古墳もこの古墳群を構成する古墳のひとつである。</p> <p>馬見丘陵公園内では整備された9基の古墳を見学することができ、復元されたナガラ山古墳は頂上まで登ることができる。</p> <p>公園に取り込まれたもの以外にも周辺に多くの古墳がある。</p>
	馬見丘陵公園（公園館、駐車場、トイレ、解説板等）	<p>開発行為から自然や古墳群を守るため「歴史と自然に囲まれた憩いの空間」を目指し奈良県が整備した。総面積は56.2haと広大であり、園内には計4か所、982台分の駐車場や9か所のトイレ等便益施設が整備されている。南エリアは巢山古墳と隣接し、巢山古墳よりも一段高い位置にあることから、南端から古墳の西側を俯瞰することができ、巢山古墳についての解説板も設置している。公園の中央エリアに位置する公園館では、馬見丘陵公園の古墳や自然についての展示室があり、無料で見学出来る。</p>
その他周辺環境を構成する諸	公園（竹取公園）	<p>平成6年(1994)に整備された面積約6.5haの都市公園である竹取公園がある。広場や遊具があり、駐車場やトイレも備えていて、遠足やイベント会場としても利用されている。</p>
	古墳以外の歴史資源（讃岐神社）	<p>竹取公園に隣接する讃岐神社は「竹取物語ゆかりの神社」とされる。</p>
	自然環境・自然地形（馬見丘陵や奈良盆地等）	<p>馬見丘陵は、奈良盆地の西部に位置する低丘陵で西は葛下川、東は高田川、北は大和川で限られる南北7km、東西3kmの南北に細長い丘陵である。標高65～80mにあり、盆地との比高差は約20mある。第三紀鮮新世から第四紀の更新世に形成された堆積層である。巢山古墳は、馬見丘陵の台地端に位置する。</p>
	吉野川分水	<p>巢山古墳の西側、竹取公園入口付近には、水田の面積に応じて水を配分する役割を担う巢山水槽（第5号分水工）があり、この分水工を通じて、水が周辺の水路（大字寺戸の上池・下池・河合町大字佐味田）に分配されている。</p>

要素	その他	道路施設、農地、住宅等
----	-----	-------------

構成要素写真一覧

築山古墳に関連する要素



築山古墳外堤西端(左)と隣接する馬見丘陵公園(右)境界部



築山古墳外堤北西部斜面の土層断面(公園内)



古墳状高まり(築山古墳と同時期の埋葬施設)



古墳状高まりの出土遺物



広陵町文化財保存センター



築山古墳出土遺物展示



築山古墳出土遺物展示



馬見古墳群(公園内)



馬見丘陵公園南工リア出入口



馬見丘陵公園内説明板



馬見丘陵公園内説明板から



馬見丘陵公園墳観橋から

その他周辺環境を構成する要素



竹取公園



讃岐神社



自然環境・自然地形・馬見丘陵



吉野川分水築山水槽(分土工)



県道に設置された歩道・バス停



農地、住宅等

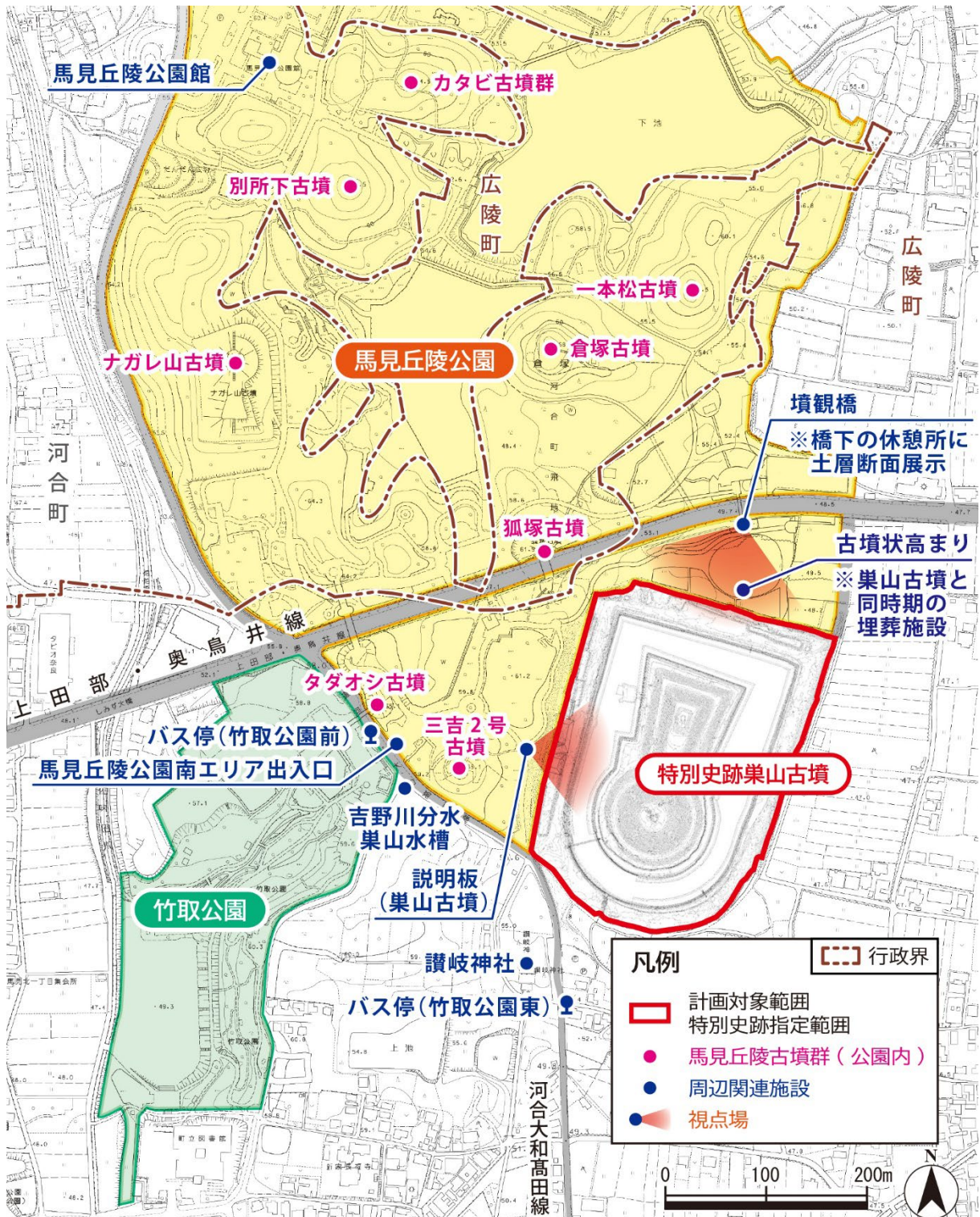


図5-4 史跡指定地周辺の主要要素